全国へ広がる ラウンドシステム

5ラウンドシステムとは

拓殖大学教授
西村秀之

▼解説動画

5ラウンドシステム（以下、5ラウンド）とは、同じ教科書を年間で何度も繰り返し学習する指導法です。教科書を初めから順に1年間かけて学ぶのではなく、1年間で教科書の全ユニットを何度も繰り返し扱うことが最大の特徴です。

1 5ラウンドが具現化されるまで考えたこと

5ラウンドは授業改善であり、5巡ありきではありません。以下のようなことを考える中で結果として5巡となりました。

①目ざす生徒像、生徒の実態

「生徒が自分の言葉で自分の思いや考えを表現することができる」という姿を思い描き、どのような授業がよいか、ということを考え続けていました。

また、5ラウンドを考えたときの生徒は、教員が英語で話したことを何となく理解し楽しんでいる様子でした。当時、小学校5、6年で外国語活動が導入され、小学校で一定時間英語に触れてきた生徒でした。聞くことに慣れ親しんでいることを活かし中学校の授業への接続ができないか、と考えました。

②言葉の学ばれ方

第二言語習得について分かっていることを授業に生かせないかということを考えました。学ばれ方が分かっているのなら、それを授業に生かしていけないか、ということです。大量のインプットからアウトプットへの具現化を考えたのです。

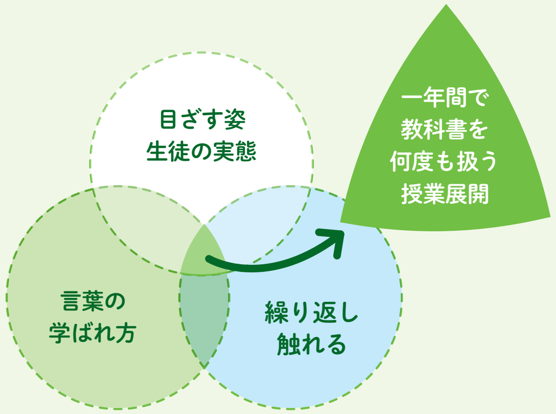

目ざす姿
生徒の実態
言葉の
学ばれ方
繰り返し
触れる
一年間で
教科書を
何度も扱う
授業展開

図1　5ラウンドの具現化

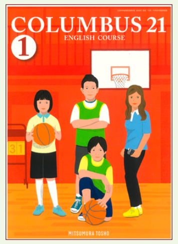
③繰り返し触れる

一人の英語学習者として、英語を身につけていくには繰り返し触れることが大切だと感じています。これは多くの方が思うところだと思います。しかし、教科書を始めから扱ったときに二度と出会わない表現や語彙はかなりあります。家庭学習に返してということではなく、学校の授業で繰り返しを保障できないか、ということを考えました。こうした主に3つのことを色々考え重なりあったところが、教科書を年間で5巡する「5ラウンド」として具現化に至ったのです**（図1）**。

2 5ラウンドシステムの具体

①教科書の扱い方

当時使用することになっていた教科書は『COLUMBUS 21』※1（HWGの前身）であり、現行版と同様ストーリーが特徴でした。ストーリーであるならば小説を何度も読み直す感覚で繰り返せる、と考えました。また、ユニット内のパートごととせず、量に対する力も育もうと、ユニットを通して扱うなどストーリーのよさを生かした授業計画となっていきました。



※1 平成24年度版『COLUMBUS 21』。創刊以来、ストーリーとキャラクターを重視するコンセプト。

②授業展開

1巡目は音声による内容理解、2巡目は音声情報と文とを結び付ける、3巡目は音読、4巡目は教科書本文に空所を設けたシートを用いての音読（穴あき音読）、5巡目はリテリング（自分の言葉で教科書のストーリーを伝える）を1、2か月周期で進めていきます**（図2）**。

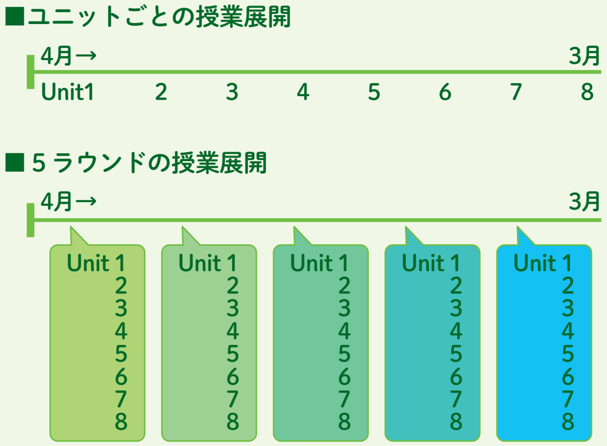

■ユニットごとの授業展開
4月→
3月
Unit1
2
3
4
5
6
7
8
■5ラウンドの授業展開
4月→
3月
Unit 1
2
3
4
5
6
7
8

図2　5ラウンドの授業展開

③通常の授業との相違

一見、変わった授業展開に見えますが、教科書のユニットなどを扱うとき、内容理解→音読→プロダクションと展開されることが多いと思います。それを多くのインプットに、かつ生徒が繰り返し触れられるよう進め方を変えただけで、行っていることは変わりません。しかし、教科書本文に触れる回数は異なってきます**（図3）**。

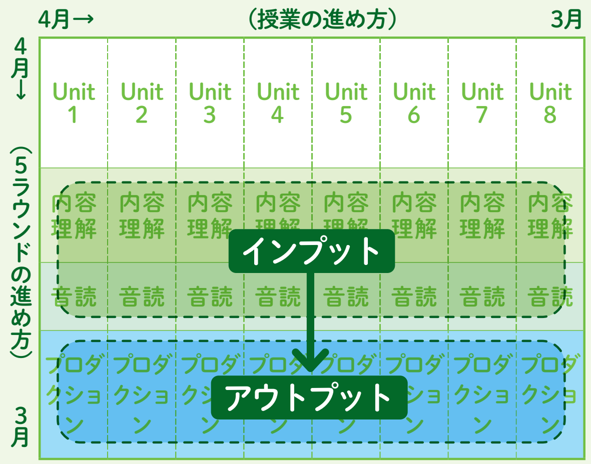

4月→
（授業の進め方）
3月
4月↓
（5ラウンドの進め方）
3月
Unit 1
Unit 2
Unit 3
Unit 4
Unit 5
Unit 6
Unit 7
Unit 8
内容理解
音読
プロダクション
インプット
アウトプット

図3　5ラウンドと通常の授業の相違

④1時間の授業展開

1時間の授業では、繰り返し扱う教科書を軸にスモールトークをするなど、生徒が可能な限り英語を活用することが大切です。多くの先生が、冒頭に活用を踏まえた帯活動を行った後、教科書のラウンドへと進めています。

参考：金谷憲（監修）西村秀之・梶ヶ谷朋恵・阿部卓・山本丁友（著）（2017）『英語運用力が伸びる5ラウンドシステムの英語授業』（大修館書店）